



「葎崎のまちなかの商店街に昨年ライブホールができたのを」存知だろうか？ライブホールと言っても大規模なものではなく、客席もせいぜい30名前後といった小さなライブホールだ。そこでは市内外で音楽活動をしているアーティストたちによるジャズやボサノヴァ、アコースティックといったジャンルのライブが定期的に開催されるなど、音楽というジャンルのこれまでない地域活性化の取り組みが始まっている。

今月は音楽の力で葎崎を盛り上げようと日夜奮闘している、このライブホール（リトル・マウス・ホール）の主宰者であるシンガーソングライター「サガノユウキさん」にスポットを当ててみた。

両親の店を、そして生まれ育った街に賑わいを

サガノさんは、中学生の頃からギターを始め、大学ではバンド活動に熱中、会社員時代も転勤で全国各地を転々としながら音楽活動を続けていた。しかしながら、帰省するたびに生まれ育った街や商店街が変わって行くことに寂しさを感じ、いずれは両親の営む写真店も無くなってしまのではといった危機感すら感じるようになったと言う。そして「両親の店を残したい。自

分の生まれ育った街にもう一度賑わいを取り戻したい。」という気持ちが強くなったことから、会社員生活に終わりを告げふるさと葎崎に戻った。自分にできること、そして何より自分の好きなことは音楽だ。音楽で街を盛り上げたい。みんなが気軽に立ち

シリーズ にらさきを元気にする人たち⑧

シンガーソングライター サガノユウキさん 音楽で人をつなぐ、音楽で街を創る。

取材・記事／広報担当 歌田

また、サガノさん自身も精力的に作曲活動を行っている。そう、サガノさんが創る曲には葎崎が題材になっている。オリジナル曲「雨二毛負ヶズ」や「銀河鉄道の街」は宮沢賢治が好きなことから制作された。葎崎市は宮沢賢治の親友である保阪嘉内のふるさとで、「銀河鉄道の夜」のヒントになったという説もある。自分の住む街を歌で表現することには、多くの方に葎崎を知ってもらいたい、そして葎崎を好きになってもらいたいとい

自分の街を歌で表現

寄れて、音楽を身近に感じることでできるライブホールをこの街に作りたいとの思いが始まりだった。

幸いにも両親が営む写真店の2階には撮影スタジオが設置されている。その場所を、夜はライブスペースやギター教室として活用することにした。今では、フェイスブックなどを通して、徐々に人気も広がりはじめ、これをきっかけに葎崎の音楽文化が醸成されるなど、他の地域と交流をするなど、音楽を通して人と人が繋がりが合うことで、葎崎が元気を取り戻してくればと話してくれた。

う願いも込められている。



毎月第3土曜日開催のライブの様子

「インターネット等が普及し、音楽をいつでも聴くことができる便利な時代になったが、こつこつという時代だからこそ、生の音楽、生きた歌声を多くの方に届けたい。音楽には人の心を豊かにし、人生に潤いを与え、そして何より地域を元気にする力がある」と力強く話すサガノさん。

サガノさんの挑戦はまだ始まったばかりだ。

●リトル・マウス・ホール
葎崎市本町一丁目9-7
プラネットアート2F
☎080-992699-5872